

姫路聖マリア病院 重症喘息外来

重症喘息治療に関する医療連携のご案内

重症喘息に対しては、従来の吸入治療・内服治療に加えて生物学的製剤の使用が可能となり、有効な臨床効果が得られております。

姫路聖マリア病院では、重症喘息治療に対して生物学的製剤などの薬剤を患者さん一人一人に合わせて選択し治療を行っております。

先生方におかれましては、高用量吸入ステロイドおよびその他の長期管理薬でもコントロール不良な患者さんがいらっしゃいましたら、是非一度当科に紹介して頂きたいお願い申し上げます。

1. 重症喘息について・・・

重症喘息とはコントロールに高用量吸入ステロイド薬および長時間作用性β2刺激薬、加えてロイコトリエン受容体拮抗薬、テオフィリン徐放製剤、長時間作用性抗コリン薬、経口ステロイド薬、IgEやIL-5を標的とした生物学的製剤の投与を要する喘息、またはこれらの治療でもコントロール不能な喘息（喘息予防・管理ガイドライン2018に定義されています。）

例えば

[高用量吸入ステロイド薬とその他の長期管理薬を併用している、喘息増悪が発現するような患者さん、または経口ステロイド薬を連用しているような患者さん](#)については、生物学的製剤が有効である可能性があります。



2. 重症喘息に対する生物学的製剤について・・・

ゾレア・ヌーカラ・ファセンラ・デュピクセントと、昨今重症喘息治療に対する、生物学的製剤の治療選択が増えてきました。

各製剤ともに、適した患者さんに使用することによって増悪抑制、全身性ステロイド薬の減量、症状・呼吸機能・QOL改善、入院及び救急受診回数の減少効果が報告されており、喘息予防・管理ガイドライン2018では、治療ステップ4の基本治療として位置づけられています。

3. 生物学的製剤の問題点について・・・

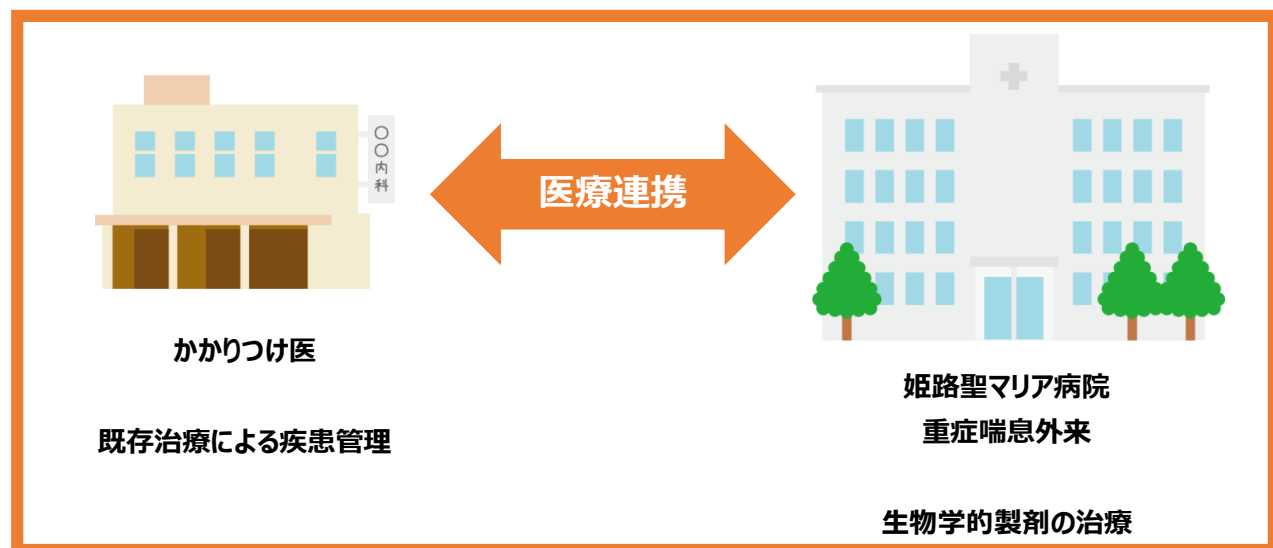
既存治療でもコントロール不十分な重症喘息患者さんに対し効果を認める生物学的製剤ですが、実臨床下においては、高額な薬剤であることから、以下のような様々な懸念事項が生じるため使用に踏み切れないという意見を多数頂くのも事実です。

- 患者さんへの説明
- 在庫管理リスク
- 先生方、スタッフの皆様の手間
- 投与直後の管理
- 副作用が発現した際の対処 など

4. 医療連携（2人の主治医体制）について…

姫路聖マリア病院では、「かかりつけ医」と「姫路聖マリア病院担当医」の2人の主治医を持って頂くことを患者さんにお薦めしています。

今回もこの『2人の主治医体制』に基づいて、既存治療による喘息治療は“かかりつけ医”の先生にご継続頂き、生物学的製剤の治療のみ当院にて実施する治療連携を行いたいと考えています。つまり、原則吸入薬等を含む薬剤処方当院では行わず、生物学的製剤による治療のみ、投与スケジュールに沿って当院へご来院頂きます。（喘息増悪に伴う夜間・休日の救急対応等もスムーズに当院で対応させていただきます。）



5. セカンドオピニオンについて…

気管支喘息の治療については医師と患者さん間でトリートメントギャップが少なからず存在いたします。さらなる診療の充実、患者さんの満足度向上の目的にセカンドオピニオンを受け付けます。何かありましたらいつでも御相談ください。

6. 患者さんのご紹介について…

当院との医療連携にご紹介いただける重症喘息患者さんがいらっしゃいましたら、当院地域連携室までご連絡ください。迅速に対応し受診の手続きをとらせていただきます。

姫路聖マリア病院 地域連携室 （平日 9：00～17：00） TEL079-265-5282

7. 診療日時のご案内…

診療日時：火曜日 14：00～15：00 完全予約制
担当医：呼吸器内科副部長 中島 康博

診療日時：木曜日 09：00～12：00 完全予約制
担当医：病院長（呼吸器内科）金廣 有彦

